

混迷の道を進む人類

人類は今混迷の道を進んでいます。
ロシアによるウクライナ侵攻で、世界の平和が実は非常に不安定なものであることが明らかになりました。

今度は中国が台湾に侵攻するのではないかと
言う恐れが高まっています。
それに呼応して、北朝鮮が韓国に攻め込む
かもしれません。
中東の国々も非常に不安定です。
平和な世界は一転、混迷の度を深めています。



ウクライナへの侵攻

人類を救い出し真の平和へと導く指導者が誰かいるのでしょうか。

この世界を見渡しても、残念ながらそのような指導者を見いだすことは出来ません。
人類は見捨てられ再び世界大戦の惨禍を経験するのでしょうか。
核戦争で人類は滅びてしまうのでしょうか。

人類に希望がありますか。

嬉しいことに希望があります。
宇宙を創造され地球を造り人類を創造された偉大な神が、私たちに救うために「メシア」を遣わす約束をしてくださっています。

今日はその約束に注目したいと思います。
その約束が一人の人物にどのように実現したかも考慮しましょう。

「メシア」に関する預言が最初に語られたのは、人類が罪に陥った直後でした。次のように語られています。

「そしてわたし（神）は、お前（蛇 サタン）と女（エバ 人類）との間、またお前の胤と女の胤（メシア）との間に敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとかみつくだらう」。 創世記 3:15

ここで 女の胤（メシア） が登場することを予告しています。
「彼（メシア）はお前（蛇 サタン）の頭を砕き」とあるように悪の勢力を一掃します。
人類を滅びと悲しみから救出するのです。

人類（エバ）から誕生する「メシア」の家系が明らかになっていきます。
最初に選ばれたのが「アブラハム」です。その子、イサク、ヤコブ、ユダと続き、後にダビデの家系から登場することが示されます。

今日は特に前8世紀頃活躍した預言者イザヤが、メシア（キリスト）に関してどのように預言していたかに注目したいと思います。

★メシア到来の預言

7:14 それゆえ、主はみずから一つのしるしをあなたがたに与えられる。見よ、おとめがみごもって男の子を産む。その名はインマヌエルととなえられる。

ここで「処女から生まれる」ことが予告されました。そのような驚くべきことが生じたのでしょうか。前2年の冬のある日、ダビデの子孫であった処女マリアにみ使いが現れ、聖霊の力によって身ごもることが預言されます。そして彼女は予告通り身ごもり、元気な男の子を出産します。

彼は成長して偉大なものとなることが予告されます。次のように預言されていたとおりです。

9:6 ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、「靈妙な議士、大能の神、とこしえの父、平和の君」ととなえられる。

9:7 そのまつりごとと平和とは、増し加わって限りなく、ダビデの位に座して、その国を治め、今より後、とこしえに公平と正義とをもってこれを立て、これを保たれる。万軍の主（エホバ）の熱心がこれをなされるのである。

生まれたばかりのイエスはヘロデによって命を狙われますが、エジプトに逃れ、ヘロデの死後、ガリラヤ地方のナザレに住まうこととなります。イエスが30歳の時バプテスマを受け、ガリラヤで宣教を熱心に行います。そのことが次のように預言されていました。

9:1 しかし、苦しみにあつた地にも、闇がなくなる。さきにはゼブルンの地、ナフタリの地にはずかしめを与えられたが、後には海に至る道、ヨルダンの向こうの地、異邦人のガリラヤに光栄を与えられる。

9:2 暗やみの中に歩んでいた民は大いなる光を見た。暗黒の地に住んでいた人々の上に光が輝いた。

★イエスの前に登場するバプテストのヨハネに関する預言

イエスが宣教を行う前に、先だって現れる預言者が登場することも預言されていました。

40:3 呼ばれる者の声とする、「荒野に主の道を備え、さばくに、われわれの神のために、大路をまっすぐにせよ。

歴史はバプテストのヨハネが登場したことを示しています。

イエスは神の霊の助けの元に宣教を行っていきます。

11:1 エッサイ（ダビデの父）の株から一つの芽が出、その根から一つの若枝が生えて実を結び、

11:2 その上に主（エホバ）の霊がとどまる。これは知恵と悟りの霊、深慮と才能の霊、主（エホバ）を知る知識と主を恐れる霊である。

11:3 彼は主（エホバ）を恐れることを楽しみとし、その目の見るところによって、さばきをなさず、その耳の聞くところによって、定めをなさず、

11:4 正義をもって貧しい者をさばき、公平をもって国のうちの柔和な者のために定めをなし、その口のむちをもって国を撃ち、そのくちびるの息をもって悪しき者を殺す。

11:5 正義はその腰の帯となり、忠信はその身の帯となる。

11:10 その日、エッサイの根が立って、もろもろの民の旗となり、もろもろの国びとはこれに尋ね求め、その置かれる所に栄光がある。

11:11 その日、主（エホバ）は再び手を伸べて、その民の残れる者をアッスリヤ、エジプト、パテロス、エチオピヤ、エラム、シナル、ハマテおよび海沿いの国々からあがなわれる。

11:12 主（エホバ）は国々のために旗をあげて、イスラエルの追いやられた者を集め、ユダの散らされた者を地の四方から集められる。

★メシアの教えの預言

イエスは会堂で、街角で、山で、海で、家々で人々を教えられました。また奇跡を行うことによって愛を示し、神から遣わされた者であることを証明しました。次のように預言されていました。

42:1 わたしの支持するわがしもべ、わたしの喜ぶわが選び人を見よ。わたしはわが霊を彼に与えた。彼はもろもろの国びとに道をしめす。

42:2 彼は叫ぶことなく、声をあげることなく、その声をちまたに聞えさせず、

42:3 また傷ついた葦を折ることなく、ほのぐらい灯心を消すことなく、真実をもって道をしめす。

42:4 彼は衰えず、落胆せず、ついに道を地に確立する。海沿いの国々はその教を待ち望む。

42:5 天を創造してこれをのべ、地とそれに生ずるものをひらき、その上の民に息を与え、その中を歩む者に霊を与えられる主なる神はこう言われる、

42:6 「主なるわたしは正義をもってあなたを召した。わたしはあなたの手をとり、あなたを守った。わたしはあなたを民の契約とし、もろもろの国びとの光として与え、

42:7 盲人の目を開き、囚人を地下の獄屋から出し、暗きに座する者を獄屋から出させる。

61:1 主なる神の霊がわたしに臨んだ。これは主（エホバ）がわたしに油を注いで、貧しい者に福音を宣べ伝えることをゆだね、わたしをつかわして心のいためる者をいやし、捕われ人に放免を告げ、縛られている者に解放を告げ、

61:2 主（エホバ）の恵みの年とわれわれの神の報復の日とを告げさせ、また、すべての悲しむ者を慰め、

61:3 シオンの中の悲しむ者に喜びを与え、灰にかえて冠を与え、悲しみにかえて喜びの油を与え、憂いの心にかえて、賛美の衣を与えさせるためである。こうして、彼らは義の樅の木ととなえられ、主（エホバ）がその栄光をあらわすために植えられた者ととなえられる。

次回は刑柱上の死が予告され、それがどのように成就したのかに注目したいと思います。